

日銀レポート……さいたま経済探訪

125

■32年連続最下位

人生100年時代を象徴するようになり、本年9月1日時点の全国の100歳以上の高齢者数は、過去最多の8万6510人となりました。高齢化は、労働力の減少などの経済的課題の観点で語られることも少なくないですが、長寿で元気な方が増えることは素直に喜ばしいことです。このニュースをテレビで見ながら、「人口10万人当たりでは、島根県が約135人で9年連続のトップとなっています。一方、最下位は32年連続の埼玉県で、約42人と島根県の3分の1以下です」とキャスターが伝えていました。

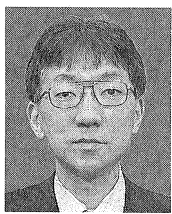
下です」とキャスターが伝えていました。

■人口構成が若い

100歳以上の長寿高齢者の増加という喜ばしい話の中で、「埼玉県が32年連続の最下位」という報道に、埼玉県経済を担当している私としては、「なぜだろう」という素朴な疑問が湧きました。そこで、埼玉県の人口データを概観しつつ、その理由を考えてみました。結論を先取りすれば、決してネガティブな話ではないというところだと思います。まず、埼玉県は「人口構成が若い県である」ということです。例えば、75歳以上の後期高齢者の人口に占める割合（2015年国勢調査）は、沖縄県に次いで2番目の低さとなっています。次に、人口構成が若い都県としては、東京都や神奈川県、千葉県、愛知県などが代にかけて、主に世帯主年齢が

清水 雅之 日本銀行調査統計局 調査主幹 埼玉県経済総括

埼玉県の100歳以上人口



しみず まさゆき 65年生まれ。東京大学経済学部卒。88年日本銀行入行。政策委員会企画室長(審議委員スタッフ)、調査統計局企画室長、内閣府政策企画調査官(統計委員会担当室、国民経済計算部)などを経て、16年4月より現職。

ありですが、その中でも埼玉県の低いファミリー層が他県などから100歳以上人口比率が最も低い流入したとみられます。一方、東理由について考えてみましょう。京都や神奈川県などは、戦後直

い県であるということ。例えば、75歳以上の後期高齢者の人口に占める割合（2015年国勢調査）は、沖縄県に次いで2番目の低さとなっています。次に、人口構成が若い都県としては、東京都や神奈川県、千葉県、愛知県などが代にかけて、主に世帯主年齢が後の都市部への人口移動や団塊の世代の誕生などで、埼玉県に先立つ40、50年代に人口が大きく増加しており、現在、100歳以上の低年齢層は、人口増加が最もなっている団塊の世代の親世代も相応に居住していると思われる。このような人口増加時期の違

いもあり、埼玉県の高齢化率（全人口に占める65歳以上の割合）は、75年から90年まで全国で最も低くなっています。本年に100歳を迎えた人は86年に65歳の人ですから、埼玉県ではこれまでは100歳以上人口比率が全国で最も低かったのだと思われま

（2016年、以下同じ）は、男性は81・13歳（全国平均：80・98歳）、女性は88・95歳（同：87・14歳）で、全体としては低くはないと思います。また、健康寿命（心身ともに自立し、健康的に生活できる期間）は、特に男性は73・1歳で全国2位となっており、健康で生活できる高齢者が相対的に多いと言えそうです（女性は74・67歳で全国29位）。

■高齢者が地域で元気に

これまで人口構成が若かった埼玉県では、今後、他県よりも早いペースで高齢化が進み、100歳以上人口比率も上昇していくとみられます。これまでも既に取り組みが行われていますが、高齢者が元気で快活に過ごせる地域社会の構築がより重要になっていくと思われま